- ・高額な洋書はアマゾン・コムで購入する。
- ・常に一番安く入手できる方法を検討する。

次に、書架スペースの問題です。毎年、図書や雑誌を購入していると、いずれは書架満杯の問題に直面します。グループの皆さんの状況をお聞きすると、国会図書館はもとより、医科大学図書館も保存が基本の方針だそうです。そのため年代の古い図書、旧版図書、利用頻度の低い図書は、閉架式書庫や図書館以外の場所に保管します。もともとスペースが十分ではない図書室は、図書の除籍基準を定めて順次廃棄の方針をとっています。

増え続ける図書の収納スペース確保は大変な問題ですが、今後、電子化が進むことにより、この問題は緩和あ

るいは解消に向かうかもしれないとの期待があります。

ふだん他の機関の図書館員と話す機会がないため、今回の討議は有益なものでした。図書館の規模やサービス対象は違えども、抱えている悩みは同じだと分かり、困難に立ち向かう勇気がわいてきました。そして、何よりも、取り組みに対する具体的な討議に参加して勉強になったことがたくさんありました。

討議の終盤では、皆さんが図書館の仕事を好きであることを確認できました。おそらく、この研修会の参加者全員が同じ気持ちではないかと思いました。これからもこの気持ちを忘れずに、よりよい図書館を目指し前進してゆきたいと思います。

グループ討議報告 図書2：自館に合った蔵書構築・選書の方法

木村 祐佳*

国立国会図書館関西館

I. はじめに

本稿は、平成20年8月6～8日に開催された、第15回医学図書館員基礎研修会におけるグループ討議「図書2グループ」の参加報告である。図書2グループでは「自館に合った蔵書構築・選書の方法」というテーマで討議を行った。

II. 討議

1日目の討議は自己紹介から始まった。当グループのメンバー構成は、筆者以外はすべて大学図書館員であったが、総合大学図書館の医学系分館、歯学・薬学系の単科大学の図書館と、その規模や体制に違いがあった。

まず、討議のテーマを策定するにあたり、メンバーが現在感じている業務上の悩み・問題点についての意見交換を行った。大きな「図書」というテーマの中には様々な業務が関連しており、その中でもメンバー全員の共通の悩みとして「選書」があがったため、これを討議のテ

マとすることになった。

1日目後半から2日目にかけて、選書に関する問題点の洗い出しを行った。各館での選書方法を紹介したが、見計らいや出版情報などからの選書、利用者からのリクエストなど、その方法は多岐に渡っており、こうした方法について、それぞれのメリットやデメリットの整理を行った。また、選書方法についての討議のほかに、選書の体制についての意見交換を行った。選書をする図書館員が、医学や薬学といった分野に関する専門知識が十分でない、という点や、教職員で組織される委員会などのメンバー変更によって選書の基準が変わってきてしまう、といった点などが問題としてあげられた。

そのほか、特に単科大学の図書館におけるの悩みとして、専門分野以外の一般資料（文学や経済など）の扱いをどのようにするか、という点もあげられた。一般資料については選書の基準が明確でないことが多く、選書のノウハウも確立されていないことが問題ということであった。

*Yuka KIMURA：〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3.
y-kimura@ndl.go.jp (2008年9月26日 受理)

Ⅲ. まとめ

2日目の後半からは発表に向け、討議であげられた問題点の改善案を考えていった。自館に合った蔵書構築のための選書基準を明文化して策定する、利用者のニーズを把握する方法として利用統計を活用するといった案がだされた。また、医学・薬学といった主題分野では、専門家の意見を反映できる選書方法であること、そのほかの分野においては教務・学生部など他部署と連携をとること、近隣公共図書館の機能分担を考慮するといった点もあがった。そして、今回の研修中でも何度も触れられたことであるが、専門分野について知識を持つために自己研鑽を積むことも大切であるという結論となった。

Ⅳ. おわりに

今回の討議を通じて、様々な図書館の業務の実情を知ることができた点が一番有意義であった。館によって細かい部分では事情が異なっているものの、共通した悩みがあった点もまた興味深かった。

グループの結論として得られた選書に関する方針は、講義中で触れられたことであったり、そのほか色々な場面で言われてきたことが中心であった。新しい画期的な方針をあげられたわけではないが、やはり基礎・基本が重要であるという感想を持った。これは、今回の研修の「医学図書館員の基礎固め」というテーマにも通じることであると思う。この研修において得られた基礎を元に「必要とされるライブラリアン」を目指していきたい。

グループ討議報告 相互貸借

橋本 郷史*

東邦大学習志野メディアセンター

I. はじめに

平成20年8月6～8日にかけて、第15回医学図書館員基礎研修会は、順天堂大学本郷キャンパスをメイン会場として開催された。研修プログラムの一環として、「図書」「雑誌」「相互貸借」「電子リソース」「情報検索」のそれぞれのテーマごとにグループを作り、討議が行われた。

本稿は「相互貸借」グループの討議報告である。討議は、医薬系の大学図書館に勤務する者9名と、公共図書館に勤務する者1名の計10名で行われた。この討議では、主に大学図書館と公共図書館との連携について意見の交換が行われた。

II. 現状

討議はまず、各参加者の担当している業務の説明から始まり、その上で、現在抱えている問題点・現状認識な

どが述べられた。各図書館に共通する問題点として、予算や人的な面での削減により、各館単独では利用者のニーズに十分に答えられるだけの蔵書構築や各種サービスの提供が難しいということがあげられた。その一方で、利用者の図書館に対する欲求は年々多様化しており、他館との連携の重要性を強く感じているということであった。各館種ごとの現状や他館種との連携に求める内容は以下のようなものであった。

1. 公共図書館

主な利用者は一般市民で、蔵書のほとんどは一般教養書である。専門的な資料の蔵書冊数が少ないことに加え、インターネットやパソコンを介した電子的なサービスを行えるツールがほとんどないことが利用者に情報提供を行う際の枷となっている。また、専門的な質問に答えられるだけの熟練されたスキルを持った職員が少ないことも問題点として挙げられる。大学図書館との連携を強化することで、専門的な分野の資料の補充、電子的ツール

*Satoshi HASHIMOTO : 〒274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1.
hashimoto@mnc.toho-u.ac.jp (2008年10月1日 受理)